

フィリピン関連年表

- 1987年 2月 上院の批准がなければ外国軍の駐留を認めない憲法が国民投票で制定
- 91年 9月 上院が米軍基地存続のための条約の批准を拒否
- 92年 スービックなどにあった国内の米軍基地が完全撤去
- 2014年 4月 米国との防衛協力強化協定（EDCA）を締結
- 22年 6月 マルコス大統領が就任
- 9月 マルコス大統領がインドネシアで同国のジョコ大統領と会談
訪米したマルコス大統領とバイデン米大統領が会談
- 11月 東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会議で「ASEANインド太平洋構想（AOP）」を具体的に推進するための首脳共同宣言を採択
- 23年 1月 マルコス大統領が訪中し、習近平国家主席と会談
マルコス大統領がスイス・ダボスでの世界経済フォーラムに出席
- 2月 EDCAを活性化させ、米軍使用を認めるフィリピン軍基地の数を拡大することで合意
マルコス大統領が訪日し、岸田文雄首相と会談

地域の将来は地域が決める「ASEANの対応



特集
すいよう

大事なものは、解決策は
軍事ではないという
揺るぎない信念



マルコス大統領（ロイター）

フィリピン 同盟と平和志向と… 米中対立下の模索

①

インド太平洋を舞台に米中両国が戦略的な対抗を続けるなか、中国に隣接する東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国で、米国の同盟国でもあるフィリピンの動向に注目

が集まっています。マルコス政権は2日、米国との防衛協力強化協定（EDCA）を活性化させ、米軍の使用を認めるフィリピン軍基地の数を拡大するとの合意を発表。米

が東アジアの同盟国やパートナー国との連携強化をはかるなか、フィリピンが今、どのような外交戦略を持とうとしているのかを探りました。（マニラ＝洞口昇幸）



リカルド・サルード氏（洞口昇幸撮影）

防衛協力強化協定（EDCA） 米比相互防衛条約に基づくものでフィリピン・米国の相互運用性向上を目的とします。米軍によるフィリピン軍基地の一時使用を認めています。両国が合意した場所には、「災害対応用の装備を含む米軍の防衛装備を貯蔵するが、災害装備に限定されない」としています。

対立を止める力はないかもしれないが、一方に加担しないことはできる。冷戦のような状況を望まない。

「受け入れる米軍の装備は、戦闘用装備は含まれない。どこかの国に攻撃的な姿勢をとるものではない。ドゥテルテ前政権時、軍報道官を務めたレスティトゥート・バディージャ元退任少将は、マニラ首都で話を聞くと、EDCA条約の第1の目的は災害対応だ」と強調しました。

同盟強化を求めるかもしれない。だからこそ、中国やすべての国との意思疎通が大切だ。



レスティトゥート・バディージャ氏（洞口昇幸撮影）

外交の根本に
平和への誓い

オースティン米国防長官らと会談するフィリピンのマルコス大統領（右）＝2日、マニラ（ロイター）



「わが国は、米中や中国のような米国の軍備を構築する経済状況がない。しかもっと大事なことは、解決策は軍事ではない。平和な状況で私たちを揺るがさない信念だ」。

「マルコス大統領は、米中や中国のような米国の軍備を構築する経済状況がない。しかもっと大事なことは、解決策は軍事ではない。平和な状況で私たちを揺るがさない信念だ」。



かつてアジア・太平洋地域で最大の米海軍基地があったスービック。基地撤去後は経済特区、観光地として発展＝3日（洞口昇幸撮影）

レイアウト・下瀬雅史

